

サーサナ

第58号 仏暦2565 (西暦2022) 年12月15日

諸行無常

これより三回にわたって、仏教の基本教理を「三法印」にそって説明をしていきたいと思います。

法印とは、仏教と他の宗教とを弁別する基準ともいうべきものです。本来の三法印は

諸行無常

諸法無我

一切皆苦

の三つなのですが、大乘仏教では「一切皆苦」を取り除いて代わりに「涅槃寂靜」を加えて三法印としたり、あるいは「一切皆苦」も「涅槃寂靜」も加えて四法印とすることもあります。しかしここでは、初期の三法印について述べていきたいと思います。

さて、諸行無常です。パーリ語（お経の原典の言語）では

サツベ・サンカーラー・アニッチャー

といいます。サツベ は「すべての」という意味で漢語では「諸」と訳されました。サンカーラー は訳しにくいのですが、「つくられたもの」「条件づけられたもの」というくらいの意味で、漢語では「行」。現代日本語では「現象」と訳されることもあります。アニッチャー は「無常」です。

したがって、諸行無常を現代語でいうならば、「すべての現象は例外なく変化する」となるでしょう。

では、つくられたもの＝現象とは何か、ということになります。それは私たちの感覚器官によって感じられるようなモノ、音、臭いだけでなく、直接感じるができないような物質原子のような微小な存在、逆に宇宙のような巨大

な存在もそうです。また心や思想などの精神的な現象もあります。これらはすべて変化していきます。

では、何か変化しないものがないだろうか、と考えてみましょう。かつては、物質を構成する原子は変化しないと思われていました。しかし今日では、原子にも寿命があることがわかってきました。（原子といえども究極の実体ではなくそれを構成している要素があります。）

キリスト教徒やイスラム教徒ならば「神」は変化しない、と答えるでしょう。しかしそれは科学的に証明されていません。（仏教経典にも神が登場しますが、その神には寿命があります）

したがって仏教では「永遠」なものは何もないと考えます。よく「永遠の愛を誓う」などといいますが、男女の愛も家族の愛も変化します。「永遠」とは幻想もしくは言葉にすぎないのです。社会も経済も人間も変化します。それなのに、あたかも変化しないかのように思い込み、確かなもののように思い込むことから、執着が生まれ、苦しみが生まれます。病気や死も無常という観点からは当然のことです。

日本人は無常感をたいせつにしてきた民族だと言われます。日本には四季の移ろいがあり、それだけに日本人はせせいな変化にも敏感であるのかもしれない。

諸行無常、という言葉から多くの日本人は平家物語の冒頭を連想するのではないのでしょうか。「祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり 沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理をあらわす」という語りから、日本人はものの哀れ、儂さ、侘しさ、といった感情をはぐくんできました。そしてそのような感情＝無常感から多くの文学作品が生まれてきました。

しかし、仏教ではそのような感情感傷は問題になりません。無常感ではなく無常観、すなわち、「すべての現象は変化する」と、ありのままに、願望をまじえることなく観察することが大切であると教えるのです。このように観察する、明らかに知ることから、私たちの人生のありようが定まります。

釈尊は入滅に際して、最後の言葉を弟子たちに残しました。それは「諸行は無常である。汝ら怠ることなく精進せよ」というものでした

無常とは自然界や外部世界だけをいうものではありません。この私自身が無常なのだとは知らねばなりません。そこから厭世主義や快樂主義に堕することなく、この大切な一日、貴重な瞬間を無駄にしないように励むことを、釈尊は教え諭されているのです。

法要行事について

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。



一月 修正会（しゅしょうえ）

修正会とは、新年を祝い、また求道の決意を新たにするための法要です。家族揃って、初詣を兼ねて本堂にご参拝ください。

- ❖日 時 1月1日（日）午前10時～11時【午前9時半から受付】
- ❖内 容 勤行（嘆仏偈・和訳正信偈）、年頭法話
- ❖持ち物 『和訳正信偈』『真宗大谷派勤行集』
- ❖記念品 鏡餅

三月 涅槃会（ねはんえ）

兼 年間物故者追弔会

兼 春彼岸会

涅槃会とは、釈尊の入滅（入涅槃＝完全なる安らぎである死を迎えられたこと）を記念する法要です。本法要にあわせて、2021年の間に亡くなられた当寺御門徒を追弔いたします。また兼ねて春彼岸法要ともなります。

- ❖日 時 3月21日（火）午後2時～4時【午後1時半より受付】
- ❖内 容 年間物故者追弔のことば
勤行（和文仏教聖典読誦、正信偈同朋奉讃）
住職法話
- ❖持ち物 『和文仏教聖典』、『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）



ネットで仏教（4） - 東本願寺

<https://www.higashihonganji.or.jp>

当寺が所属する「真宗大谷派」の本山です。正式名称は「真宗本願寺」といいます。京都堀川にある西本願寺に対して東に位置することから「東本願寺」「お東」などと称されます。開基は教如上人（1558-1614、本願寺第12世）。



東本願寺の基本情報や真宗の教えなど、もりだくさんの内容ですが、中でも「東本願寺の歴史」は読み物としてもおもしろいので、おすすめします。

年忌法要

来年（2023年）は没年が下記に相当する方の年忌になります。

1 周忌	2022年（令和4年）	< 27 回忌 >	1997年（平成9年）
3 回忌	2021年（令和3年）	33 回忌	1991年（平成3年）
7 回忌	2017年（平成29年）	< 37 回忌 >	1987年（昭和62年）
13 回忌	2011年（平成23年）	50 回忌	1974年（昭和49年）
17 回忌	2007年（平成19年）	< 70 回忌 >	1954年（昭和29年）
< 23 回忌 >	2001年（平成13年）	100 回忌	1924年（大正13年）
25 回忌	1999年（平成11年）		

大谷派儀式条例に定める年忌は、1・3・7・13・17・25・33・50・100、およびそれ以後100年毎、となります。しかし地域によっては < > 内やそれ以外の年忌法要を勤める場合があります。

- ❖ 御自宅で開催の場合、駐車場の確保をお願いします。
- ❖ 僧侶が袈裟衣を着替えるためのスペースを用意して下さい。
- ❖ 勤行本（正信偈同朋奉讃）を人数分用意してください。足りない場合は当寺に必要部数をお伝え下さい。
- ❖ 開催の前日までに、仏具のおみがき、お内仏の清掃をしましょう。
- ❖ 教心寺本堂で開催の場合、使用料として1万円をお願いしています。

会費の納入について

会費の期限切れの方は、更新をお願いします。皆様の納入年度は封筒宛名シール下部に記されています。1年で1000円ですが、事務軽減のため、複数年を納入していただくとたすかります。

郵便振替00880-4-68473「教心寺」、または現金手渡しで。

真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞式（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>
